

司馬遼太郎生誕百年 企画展

小林修 写真展

司馬遼太郎 『街道をゆく』の視点

歩いた風土、見抜いた時代

早朝の番付灘

2023.
10.7 [土] - 11.26 [日]

休館日/毎週月曜日、10月10日(火)、11月24日(金) ※ただし、10月9日(祝・月)は開館

姫路文学館 北館

観覧料/一般310円、大学・高校生210円、中学・小学生100円(特設観料金)

※20名以上の団体は2割引! ※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方(手帳またはマイロIDの手帳画面を提示してください)及び介護者1人、姫路市内在住の65歳以上の方、どんぐりカード・ココロカード提示の小中学生は無料

開館時間/午前10時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)

■主催/姫路文学館

■特別協力/公益財団法人 司馬遼太郎記念財団

■協力/朝日新聞出版 ■監修/村井重俊(元週刊朝日編集部)

■後援/朝日新聞社姫路支局



姫路城
開館30周年
1988-2018



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
<http://www.himejibungakukan.jp/>



ゴビ砂漠(モンゴル)



白鬚神社(滋賀県高島市)

司馬さんが伝えようとした言葉とシンクロする、
普遍性を持った風景に出会う瞬間があるのだ。 小林 修

小林修氏は『週刊朝日』で連載されていた「司馬遼太郎シリーズ」の写真を17年にわたり担当し、作家司馬遼太郎氏の作品世界を表現しつづけているカメラマンです。司馬氏のライフワーク『街道をゆく』の最後の担当であった村井重俊氏とともに司馬作品ゆかりの地取材し、その原風景を撮りつづけてきました。

本展は、小林氏が長年にわたり撮り重ねてきた膨大な写真群のなかから厳選した約百点を展示します。写真のテーマは『街道をゆく』をメインにすえて、同作において時空を自在に行き交い、時代をすどく見抜いた司馬氏の思索と密接なつながりをもつ『坂の上の雲』『竜馬がゆく』『播磨灘物語』などの小説、『この国のかたち』ほかのエッセイなどにも広がっています。

東京六本木のフジフィルムスクエア、富士フィルムフォトサロン大阪の展覧会において展示した写真に、姫路文学館では播磨関連の写真を加えています。司馬作品の世界に共鳴する小林氏の写真の魅力をどうぞご堪能ください。



奈良・若草山



十三湖

小林 修 こばやし おさむ

1966年、群馬県に生まれる。1990年、立教大学英米文学科卒業。同年、朝日新聞社に入社。出版写真部で「アサヒグラフ」「週刊朝日」などの撮影を担当。主な展覧会に「司馬遼太郎さんの歩いた道」展(画家・安野光雅氏との二人展、新宿紀伊國屋書店・丸善丸の内店、2007年)、「小林修写真展 司馬遼太郎の世界」(朝日新聞東京本社2階コンコースギャラリー、2018年)、「小林修写真展 司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」(坂の上の雲ミュージアム、2022年)など。写真集に「司馬遼太郎『街道をゆく』の視点」(朝日新聞出版)、「司馬遼太郎『坂の上の雲』の視点」(同)、2003年、2017年、2018年、2019年、日本雑誌写真記者会賞最優秀賞を受賞。現在、朝日新聞出版写真映像部長。



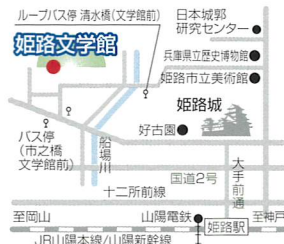
黒崎教会(長崎市黒崎町)

イベント情報／トークイベント

写真家と担当記者が「週刊朝日」司馬遼太郎シリーズを語る

●日時／10月8日(日)午後1時30分から3時(開場：午後1時) ●会場／姫路文学館・講堂 ●定員／100名(当日先着順)

写真家の小林修さんと記事を執筆してきた村井重俊さんが司馬遼太郎の視点と作品世界を語り合います。講演会の後はサイン会も実施。



アクセス ●JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス9・10・17・18番のりば(一部停車しない系統があります。ご確認ください)で乗車約6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩約4分。6番のりば城周辺観光ループバス乗車10分、「清水橋(文学館前)」下車、西へ徒歩約3分 ●山陽自動車道姫路東I.C. あるいは姫路西I.C. 下車約20分 ●姫路ハイパス中地ランプ下車約15分

他館イベントのご案内

特別企画展
「チームラボ 無限の連続
の中の存在」後期
10月21日(土)～2024年1月21日(日)

姫路市立美術館 ☎079-222-2288

秋季特別展・
姫路城世界遺産登録30周年記念
「姫路城ゆかりの工芸」
10月28日(土)～12月24日(日)

姫路市書写院 美術工芸館 ☎079-267-0301

姫路文学館公式アカウントで
情報やつぶやきを発信中!

